

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

令和5年 春 第72号

あかり

A K A R I

3月26日は
パープル・デー

パープル・デーとは、てんかんについて理解を深めてもらうための国際的なイベントです。当日は紫色の物を身につけて過ごします。

院長就任にあたって	1
定年を迎えて	2
地域の行事紹介「麻機遊水桜まつり」	3
パープル・デー静岡2023	4
外来再診の診療体制/医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ/当院へのアクセス/本	8

院長就任にあたって

今井 克美



2023年4月から高橋幸利前院長(現名誉院長)の後任として院長を拝命いたしました。当院は国立療養所静岡東病院(てんかんセンター)と国立静岡病院が2001年に組織

統合して生まれた国立療養所静岡神経医療センターを前身とし、2004年4月に現在の国立病院機構静岡てんかん・神経医療センターとなり、現在に至っています。てんかん、神経難病・認知症、重症心身障がい の3本柱を対象とする神経病院としての当院の概要を簡単にご説明させていただきます。

1) **てんかん**：1975年に日本で最初に開設されたてんかんセンターであり、てんかん医療を極めたいという思いで全国から集まった25～30名の医師がてんかんに精通した多職種メディカルスタッフと協力しててんかんの診断、初期治療から、難治性てんかんの様々な治療、包括医療まで対応しており、海外からの患者さんや医師・技師の研修も受け入れています。

2) **神経難病・認知症**：東海北陸地区の基幹病院として先端的役割を果たすとともに、静岡県難病ネットワークの基幹協力病院、静岡県・市の認知症疾患医療センターとしての役割を担っています。

3) **重症心身障がい**：家庭での療養生活が困難な患者さんに、すべてのライフステージに対応した生活

に寄り添う医療を行うとともに、通園・ショートステイも行っています。

当院の英語表記は Shizuoka Institute of Epilepsy and Neurological Disorders となっており、そのまま日本語に訳すと、てんかんと神経疾患の静岡研究所のようになります。多くの病院のように *** Hospital (病院) や、*** Medical Center (医療センター) ではないのは、単なる診療にとどまらず教育・研究も重視していることのあらわれであります。カナダのモントリオールには Montreal Neurological Institute (モントリオール神経研究所) という世界的に有名な研究所・病院があり、当院の目指すところが一致することからこのような名前になったように思います。

さて、当院の正面玄関をくぐる前に病院の外壁を見上げますと、赤い丸の中に白いろそくをかたどったマークがあることにお気づきでしょうか？ これは国際てんかん協会のロゴを基本にして作ら

れ、国立療養所静岡東病院(てんかんセンター)時代から使われている当院のシンボルマークであり、「難病をもつ人たちに灯をともしような医療を行いたいという私どもの志向を、ろうそくが表している」という思いが込められています。長年の日差しの影響をうけて傷みが見られましたので塗り直しました。新型コロナウイルス感染症で受診や入院をためらっておられた方もおられると思いますが、安心して当院にいらしていただけるよう、職員一同、新しくなったシンボルマークのように気持ちを新たに、てんかんや神経疾患を持つ患者さんとご家族のために全力を尽くしていきたいと思えます。



定年を迎えて

当院に受診いただいている患者様そしてご家族の皆様、御元気にお過ごしでしょうか？ 広報誌「あかり」が発行される頃、私は定年を迎えています。

私は1982年に岐阜大学医学部卒業と同時に小児科に入局しました。それは、将来あるこどもたちのために働けることに希望を持ったからでした。大学院で教授から与えられた研究テーマは、先天代謝異常症の診断に関するものでした。当時は先天性代謝異常の根本的な治療はなく、てんかん発作に苦しむ方も多い病気でしたので、せめててんかん発作をよくしてあげられないかと思い、当院の前身である国立療養所静岡東病院の門をたたくことになりました。

私が国立療養所静岡東病院の7病棟で経験させていただいた頃の症例に、ラスムッセン症候群(脳炎)という病気があります。この病気は軽微な感染症やワクチン接種後にてんかんが発病し、片麻痺から寝たきりになっていく進行性の疾患で、当時は病気のメカニズム分かっていませんでした。この病気にグルタミン酸受容体に対する免疫が関与しているの

静岡てんかん・神経医療センター名誉院長 高橋 幸利

はないかということが、初めてアメリカから報告されたのが1994年です。私は偶然、1995年から東京大学医学部でグルタミン酸受容体の研究をすることになって、地下鉄サリン事件の渦中の東京に向かいました。恩師である三品教授のご許可をいただいて、NMDA型グルタミン酸受容体の自己抗体検出システムを構築でき、ラスムッセン症候群の日本での診断に役立てることが可能となりました。その後もグランザイムBというさらに特異的な診断マーカーの測定を、静岡てんかん・神経医療センターで可能にし、日本のラスムッセン症候群の多くの方が当院に





検査を依頼される状況になっています。そして、免疫修飾治療を確立でき、早期に開始することで、ほとんどの患者さんが寝たきりにならず、テレビ番組などの日常生活を楽しめる認知機能を維持できるよ



牧之原台地からみたお正月の富士山

うになりました。皆さんの中にも、免疫が原因となっている神経疾患の方がいるかもしれません。早期に免疫が原因と分かると有効な治療があり、一人でも多くの方が完治することができるよう願っています。

私は定年後も、非常勤として当院で診療・研究を続ける予定です。当院にしかできない免疫介在性神経疾患の研究を主体に、これまで患者さんから学ばせていただいた経験を活かして、皆さんが人生をより楽しめるように微力を尽くしていきたいと思っています。美しい静岡の風景を楽しみながら頑張ります、今後もよろしくお願いします。



静岡市を流れる夏の安倍川

地域の 行事紹介

「麻機遊水 桜まつり」

管理課 庶務係長
加治 豪廣



病院から徒歩約10分のところにある麻機緑地では、約150本の河津桜が植えられており、2月下旬から3月上旬にかけて、早咲きの桜が楽しめる素敵な空間になっております。桜の開花期間中にはお祭りも開催されるようです(今年は3月4日(土)に開催されました)。皆さんも一足早い春を感じに訪れてみてはいかがでしょうか。



写真撮影 西田 拓司

PPLE AY

ー静岡2023

6日は
ル・デー

、てんかんにつ
てもらうための
ットで、当日は紫
たり飾ったりし



また、本年より近隣の藤枝市をホームにしているサッカーJ2の藤枝MYFC様に賛同していただき、ホーム開幕戦が行われた令和5年2月25日(土)に藤枝総合運動公園サッカー場にて入場者にパープル・デーにかかるグッズを配布し、啓発活動を行いました。



グッズを
配布しました。





病院内においては、病院正面玄関自動ドアや、外来ロビー、A3、4、5、6病棟、療育訓練室入り口等、あらゆる箇所に紫色を基調とした飾り付けを行いました。



また、病棟等でスタッフが紫色のマスクを着用しました。

てんかんが誰にでもかかりうる可能性があり、いろいろな症状があることを理解して頂き、一人でも多くの方が早期発見、治療につながるようになっていくようこれからもてんかんに関する活動を行ってまいります。



診 療 体 制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

診察室	初 診					再 診				
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
第1診察室							山崎悦	川口	山崎悦	白井
第2診察室						徳本		荒木		
第3診察室	大谷英之			白井直敬			西田			西田
第4診察室								日吉	美根	川口
第5診察室							水谷			小川
第6診察室						芳村			芳村	松平
第7診察室			山口解冬	荒木保清			荒木			山口
第8診察室		今井克美		今井克美	今井克美	今井		高橋		
第9診察室		川口典彦	芳村勝城			重松			大谷	大谷
第12診察室	西田拓司		松平敬史		山崎悦子					

脳神経内科

■ 初診

診察室	曜日	月	火	水	木	金
第10診察室	午前	高嶋	小尾	小尾		小尾
	午後	小尾智一	小尾智一	小尾智一		小尾智一
第11診察室	午前	杉浦	杉浦	寺田		
	午後	寺田達弘		寺田達弘		尾内康臣 <small>第4週</small>
第13診察室	午前			高嶋		

特殊外来

認知症疾患医療センター 月・水 小尾智一

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

地域医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、地域医療連携室を設置しています。ご利用ください。(平日)

T E L ■ 054-246-4580

F A X ■ 054-246-4607

E-mail ■ 307-renkei@mail.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。上記、地域医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人 ■

西田 拓司	青木 裕子	石橋 綾子
矢嶋 隆宏	佐橋 恩	葛城 裕幸
田中佐代子	高橋 輝	長田 英喜
加治 豪廣		

発行 ■ 令和5年5月25日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山886

T E L ■ 054-245-5446

F A X ■ 054-247-9781

U R L ■ <https://shizuokamind.hosp.go.jp>

E-mail ■ 307-shizuokamind@mail.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約は、本人・家族は予約センター(054-246-1065)、病院からは地域医療連携室(054-246-4580)その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,750円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 セカンドオピニオンについて

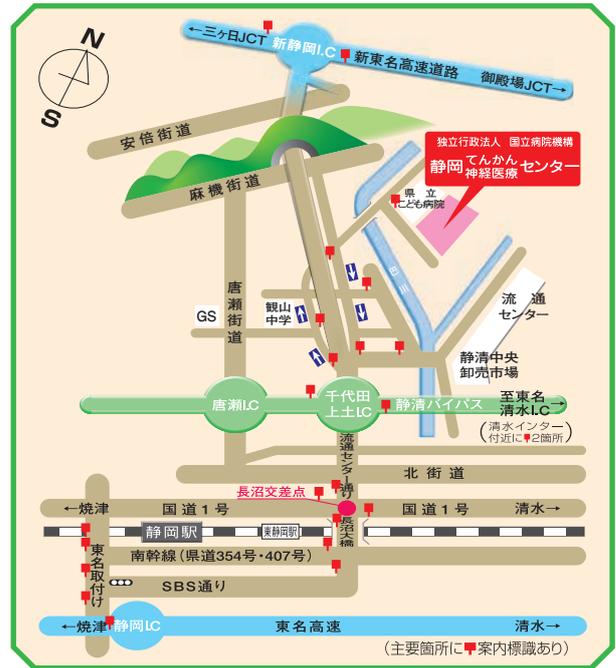
セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

5 静岡市認知症疾患医療センターについて

認知症の受診やご相談は専門医療相談 ☎054-246-4608

当院へのアクセス access

バスをご利用の場合	● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人370円、小児190円。
タクシーをご利用の場合	● JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,500円程度。
お車の場合	● 東京方面から ● 東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ約3分。所要約20分。 ● 御殿場JCTで新東名高速道路へ乗換。新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
	● 名古屋方面から ● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ約10分。所要約30分。 ● 新東名高速道路・新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



本

●抗てんかん薬ポケットブック(改訂第6版)

【日本てんかん協会、2016年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q & A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

●エキスパートが語る てんかん診療実践ガイド

【日本医事新報社、2022年7月】

静岡てんかん・神経医療センターの専門医が中心となり、てんかんの診断・分類から薬物治療、社会生活のアドバイスまでを体系的に解説。
 ・てんかん発作と間違いやすい症状・疾患との鑑別を丁寧に取り上げ、誤診を防ぐための知識をふんだんに紹介。
 ・薬物治療についても、併存症や副作用、減薬など、判断に迷うことの多い疑問にやさしく回答しました。

●新 小児てんかん診療マニュアル 【診断と治療社、2019年】

多くの読者に支えられ改訂を重ねてきた本書。今回、2017年の新しいILAE てんかん発作分類提案に基づいた小児てんかん診療を可能とするために、ここに「新版」として生まれ変わりました。新規抗てんかん薬だけでなく、新分類で重視される病因別の特徴や心因性非てんかん発作、遺伝子検査、MRSといった新しい画像検査など、てんかん学の進歩をたくさん詰め込みました。

●プライマリ・ケアのための 新規抗てんかん薬マスターブック(改訂第2版)

【診断と治療社、2017年】

「副作用のない治療によるてんかん発作の完全抑制」は、治療を担当する医師および患者さんとそのご家族にとって、切実な願いです。
 2006年以降、「新規抗てんかん薬」とよばれる新しい抗てんかん薬が順次発売され、今後しばらく、新規抗てんかん薬の発売が続くと予想されています。本書は、これらの新規抗てんかん薬の使い方をわかりやすく解説したものです。小児と成人に分けて、エビデンスやガイドラインに基づいて、当院のスタッフがわかりやすく執筆しています。当院高橋幸利先生の編集です。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- 2 ホームページによる情報提供 <https://shizuokamind.hosp.go.jp/epilepsy-info/>
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談(予定)